

### 3. 帯広市一般・特別会計予算執行の概要



# 帯広市一般・特別会計予算執行の概要

## 1 令和2年度における国の予算及び地方財政について

### (1) 国の予算について

令和2年度予算は、我が国財政の厳しい状況を踏まえ、引き続き、歳出全般にわたり、聖域なき徹底した見直しを推進するものとして編成された。また、賃上げの流れと消費拡大の好循環、外需の取り込み、設備投資の拡大を含めた需要拡大に向けた取組や、Society5.0時代に向けた人材・技術などへの投資やイノベーションの促進、次世代型行政サービス等の抜本強化といった生産性の向上に向けた取組など、重要な政策課題への対応に必要な予算措置を講ずるなど、メリハリの効いた予算編成を目指すとともに、「15か月予算」の考え方で、災害からの復旧・復興と安全・安心の確保、経済の下振れリスクを乗り越えようとする者への重点支援、未来への投資と東京オリンピック・パラリンピック後も見据えた経済活力の維持・向上を柱とし策定された「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」に基づき、令和元年度補正予算を編成するとともに、予備費を含めた令和元年度予算、令和2年度の臨時・特別の措置を適切に組み合わせることにより、機動的かつ万全の対策を講ずることとされた。

さらには、東日本大震災・熊本地震をはじめ、各地の災害からの復興や防災対応の強化を現場との連携を密に着実に進めるほか、3年間集中の防災・減災、国土強靱化の緊急対策を着実に実行するとともに、台風被害を踏まえた課題を検証し、水害対策を中心に防災・減災、国土強靱化を強力に進め、インフラ老朽化対応を含め、国民の安全・安心を確保することとされた。

なお、令和2年度予算は、「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2018」及び同方針2019に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進するとともに、引き続き、2025年度の財政健全化目標の達成を目指し、新経済・財政再生計画で定める目安に沿った予算編成を行うこととされた。

また、予算の質の向上と効果の検証に取り組むとともに、次世代型行政サービスの実現に向けて、国が主導して国及び地方自治体等の情報システムやデータの標準化を推進するなど、デジタル・ガバメントの早期実現を図り、行政コストの削減、行政手続の簡素化・効率化を推進することとされた。

新型コロナウイルス感染症対策の関連では、感染拡大防止策や経済対策等のための補正予算を編成し、歳出面では、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金や特別定額給付金等の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策関係経費等が、歳入面では、前年度剰余金、特例公債等が追加計上された。

### (2) 地方財政について

極めて厳しい地方財政の現状等を踏まえ、歳出面においては、人づくり革命の実現や地方創生の推進、地域社会の維持・再生、防災・減災対策等に対応するために必要な経費を計上するとともに、社会保障関係費の増加を適切に反映した計上を行う一方、国の取組と基調を合わせた歳出改革を行うこととされた。

また、歳入面においては、骨太方針2018で示された新経済・財政再生計画を踏まえ、交付団体をはじめ地方の安定的な財政運営に必要な地方の一般財源総額について、令和元年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することを基本として、引き続き生ずることとなった大幅な財源不足について、地方財政の運営上支障が生じないよう適切な補填措置を講じることとされた。

## 2 令和2年度における本市の予算執行について

令和2年度予算は、持続可能なまちづくりを進めていくため、市民の主体性や多様性を大切にしながら、市民と市が共通認識を持ち、ともに力を合わせ、各施策を推進するとともに、「フードバレーとかち」の取組等を通して、地域が持つ可能性を広げ、まちの活力に繋げていくことが重要であることや、今後、社会保障費の増加等により財政の硬直化の進捗が懸念され、これまで以上に効果的・効率的な自治体経営に取り組んでいく必要があることから、「全ての市民の幸せ」を念頭に3つの重点を設定し、編成にあたった。

また、新型コロナウイルス感染症に係る予算措置については、国等の動きに連動した対策や、地域の実情に応じた対策等を講じていく必要があるため、迅速に対応できるよう情報収集に努めながら、補正予算編成にあたった。

予算の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染症による事業実施への影響に十分留意しながら、各部各課において、事態が刻々と変化していく中で、職員一人一人が使命感を持って状況に応じた適切な対応や事業の効果が最大かつ適切な時期に現れるように努めるとともに、歳入の減少が見込まれる場合には、事業の目的や効果を検討し、歳出の抑制など財源不足への対応方針を明らかにするなど、適切な執行を心がけた。

この結果、令和2年度における一般・特別会計に係る予算執行の概要は次のとおりとなった。

### (1) 一般会計

予算規模は、当初83,805,000,000円、前年度当初予算対比0.8%増の予算を計上した。

その後、新型コロナウイルス感染症対策、各般の行政需要、景気動向の変化等に的確に対応するため、24,402,127,000円の補正予算を計上した結果、前年度からの繰越額806,394,971円を含め、最終予算額は109,013,521,971円となった。

予算執行にあたり、市税、国・道支出金をはじめとする財源の捕捉に努めるとともに、経費の節減など、効率的な財政運営に努めた結果、

歳入決算額 103,170,908,036円（執行率94.6%）

歳出決算額 101,634,672,890円（執行率93.2%）

歳入歳出差引額 1,536,235,146円となった。

なお、翌年度繰越額として2,116,182,200円を計上した。

### (2) 特別会計

#### ・ 国民健康保険会計

本年度は最終予算額16,519,021,000円を計上し、財政運営の主体である北海道と連携し、適正な医療保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額 15,953,961,713円

歳出決算額 15,751,655,827円

歳入歳出差引額 202,305,886円となった。

なお、翌年度繰越額として253,000円を計上した。

#### ・ 後期高齢者医療会計

本年度は最終予算額2,527,632,000円を計上し、北海道後期高齢者医療広域連合を中心に、適正な医療保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額 2,588,696,985円

歳出決算額 2,493,930,285円となり、

歳入歳出差引額 94,766,700円を翌年度へ繰り越した。

- ・ 介護保険会計

本年度は最終予算額 15,592,799,000 円を計上し、適正な介護保険給付と保険料等の財源確保に努めた結果、

歳入決算額	15,711,863,079 円
歳出決算額	15,229,319,273 円
歳入歳出差引額	482,543,806 円 となった。

なお、翌年度繰越額として 4,867,720 円を計上した。

- ・ 中島霊園事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 61,646,000 円を計上した。

墓地の貸付と効率的な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、61,311,329 円となった。

- ・ ばんえい競馬会計

本年度は最終予算額 50,730,561,000 円を計上し、全 150 日のばんえい競馬を開催した結果、

歳入決算額	49,580,443,904 円
歳出決算額	49,223,270,839 円 となり、
歳入歳出差引額	357,173,065 円 を翌年度へ繰り越した。

- ・ 駐車場事業会計

本年度は維持管理経費等最終予算額 84,540,000 円を計上した。

中心市街地における買い物客等の利便を図るとともに、駅北地下駐車場等の効率的な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、84,531,446 円となった。

- ・ 空港事業会計

本年度は維持管理経費、滑走路・灯火の工事費等最終予算額 2,660,132,000 円を計上した。

とちぎ帯広空港の航空機離着陸の安全確保をはじめ、適正な管理運営に努めた結果、歳入歳出決算額はともに、2,427,875,660 円となった。

なお、空港運営の民間委託に伴い、令和 3 年度から一般会計へ移行する。

